

下野市立祇園小学校

1 学校課題

他者を尊重し、互いに学び合い高め合う児童の育成
～国語科における対話的な学びを通して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

これからの社会を生きる中で出会う課題や困難を乗り越えていくためには、一人の力だけではなく、複数の力を合わせて立ち向かっていく必要がある。そのためには、学校教育において、他者の考えや気持ちを理解し、互いに認め合える子どもたちを育てていくことが重要であると考え、「互いに学び合い高め合う」を、研究主題を構成する一つの視点とした。また、これまでの研究では、「自分のよさを生かす」という視点でコミュニケーション活動に取り組みせてきたところ、授業において、相手意識と目的意識をもたせる工夫をすることで、子どもの主体的な姿が見られるという成果が得られた。昨年度からは、「他者を尊重する」ことを研究主題を構成するもう一つの視点とした。相手の気持ちを受け止めて理解し、その上で自分の考えを深めることができる子どもを育成していくことを目指していく。研究の蓄積を生かしながら、今年度も研究教科を国語とし、対話的な学び、特に他者の考えや気持ちを聞くことを通して主題に迫りたい。

(2) 研究の仮説

国語科において、対話的な学びを通して、他者の考えや気持ちを聞いて理解する力を育てることができれば、他者を尊重し、互いに学び合い高め合う児童を育成することができるであろう。

3 研究内容

目指す児童像の共有



- 【低学年】 友達の考えを聞くことができる児童
- 【中学年】 共通点や相違点を見つけながら、友達の考えを聞くことができる児童
- 【高学年】 友達の考えを聞いた上で、自分の考えを深めることができる児童

(1) 具体的方策

- ① 「読む」単元における単元計画の工夫
目的をもって自分の思いを伝え合い、伝え合う喜びを実感できる言語活動を設定するようにした。単元を見通し、効果的な場面で、他者の考えや気持ちを聞く場を設定した。
- ② 「話す・聞く」ことの重点的な指導
「話す・聞く」単元において、発達段階に応じた聞き方・話し方を丁寧に指導した。
- ③ 他教科との関連
道徳、学活、総合的な学習の時間等、必然性のある場面で対話的な活動を取り入れる。
- ④ 振り返りの充実と評価の工夫
友達と意見を交流した後には、振り返る時間を取り、自分の考えの変容に気付くことができるようにした。
- ⑤ 評価の工夫
変容が見とれるようなワークシートやノートを工夫した。
- ⑥ タブレットなどのICTを場に応じて効果的に活用した授業実践
子どもたちの思考や表現を助けるツールとして、また、教師の効果的な指導のツールとして、タブレットなどの情報機器の活用を図る。

(2) 授業公開を通じた主題への取組

①研究授業

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
6 / 18	6年	「時計の時間と心の時間」 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の挙げ方を学び、説得力のある提案文を書くという言語活動を設定。 ・グルーピングの工夫。グループ→自由グループ(さらに意見を聞きたい人との交流) ・個→グループ→学級からさらに自分の考えについて再考する場を設定。
9 / 24	3年	「すがたをかえる大豆」 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識や相手意識をもたせる工夫(自分の調べた食材の説明) ・説明文のまとまりの分け方について、意見のずれをもとに話し合う。 ・話合いの評価規準(ループリック)の活用。

②一人一授業公開

学校課題のねらいや具体的方策を踏まえ、6月から1月までの間に国語の授業を実践した。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①単元全体を見通し、授業を考えることができた。児童と単元のゴールや学習計画を共有し掲示するなど、いつでも確認できるようにしていたことで、今の学習は何のためにしているのか、児童一人一人が自分事として感じる事ができた。
- ②自分の思いを伝え合う活動を意図的に設定することで、友達との相異点に気付いたり、友達の考えを取り入れて考えを深めたりしている児童の姿が見られるようになった。
- ③児童の意見をつないで授業作りができた。話合いの中で新たな課題などの視点を児童自身が見付けることができてきた。
- ④なかなか自分の考えを言語化できない児童も、ICTの活用により友達の記述を参考にして、話合いに参加できるようになってきた。

(2) 研究の課題

- ①学習して身に付けた力をどのように活用していくのか、教科横断的な関連を意識してカリキュラムマネジメントを進めていく必要がある。
- ②「対話的な学び」が、児童同士の話し合い活動にとらわれてしまったので、「対話的な学び」についての理解を深め、「対話的な学び」が成立している児童の姿を共通理解して研究を深めていきたい。
- ③「対話的な学び」における思考の変容を可視化するための評価の観点および評価基準の在り方をさらに検討していきたい。